名古屋港木材倉庫100年史

100th ANNIVERSARY

名古屋港木材倉庫株式会社

名古屋港木材倉庫はこの地で

貯木場開設からスタートしました。

※枠内が社有地（旧加福新田は、p.302 を参照）

木材で埋まる昭和初期の加福貯木場

加福貯木場跡地の現況（令和４年秋）

会社設立時の社屋

現在の本社社屋

「加福」の社名が入った法被姿の作業員

社章

木遣り作業（昭和初期）

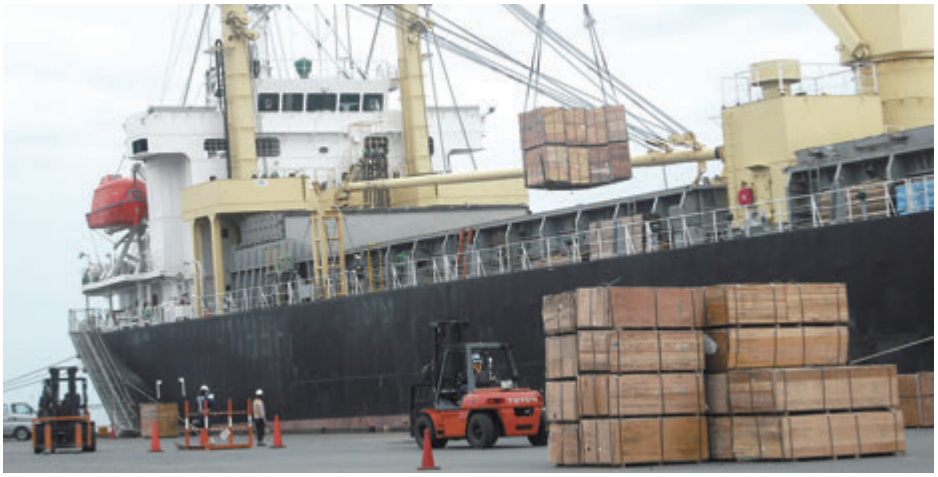
太陽光発電設備

港湾運送事業（西部木材港）

西部木材港（令和４年秋）

本船荷役（丸太）

貯木場内作業



本船荷役（木材製品）

デバンニング

西部木材港事務所

第２飛島倉庫

西部倉庫と水面貯木場

飛島倉庫と水面貯木場

リサイクル事業

エコワールド名古屋

事務所

工場

チップヤード

工場入り口

エコワールド犬山

事務所(左)と工場

破砕機のベルトコンベアー

エコワールドバイオマス

NPLW バイオマスパワープラント

破砕プラント

チップヤード

NPLW バイオマスパワープラント外観

システムモニター室

エコワールド豊橋

（犬山の続き）チップヤード

工場

レクリエーション事業

大江グランドゴルフ（ゴルフ練習場）

加福フィッシュランド（釣堀）

発刊にあたって

名古屋港木材倉庫株式会社
代表取締役社長　野間　順一

名古屋港木材倉庫株式会社は令和5年5月25日、100周年を迎えることができました。

当社の前身は、天保 12(1841)年の当栄新田(加福新田)の新田開発に始まるとされています。大正 12(1923)年 5 月、貯木場の築造・運営など港湾運送事業を担うため、加福土地株式会社(昭和 19 年、名古屋港木材倉庫株式会社に社名変更)が設立されました。

振り返ってみますと、創業時の苦労、東南海地震、戦災、伊勢湾台風などの災害、会社存続の危機、輸入丸太の減少から木材製品へ移行、そして貯木場の閉鎖に至りました。昭和 60 年、貯木場跡地に建設廃材などをリサイクルする燃料用チップ工場と、ゴルフ練習場を開設、環境事業とレクリエーション事業のスタートです。さらに、名古屋市内で排出される剪定枝葉を燃料として発電し、名古屋市民へ還元する地産地消の循環型リサイクルのバイオマス発電事業「NPLW バイオマスパワープラント」を、令和 4 年 2 月に開始しました。

創業以来、幾多の試練があり、これらを乗り越えて当社が事業を続けてこられましたのは、適切なご指導を賜りました監督官庁、木材業界・リサイクル事業部の得意先をはじめとする関係各方面の皆さまの温かいご支援とご協力、ゴルフ練習場などへの多くのお客さまのお陰と心から深く感謝申し上げます。また、知恵とたゆまぬ努力でこれまで会社を支えてくださった諸先輩、従業員の皆さんに敬意を表します。

この大きな節目を記念して『名古屋港木材倉庫 100 年史』を発刊いたしました。

再生可能な資源である木にこだわり、木とともに生きる「名木倉(めいもくそう)」は、地球環境保全が求められる新しい時代の多様なニーズに応えられますよう、社員一丸となってさらなる努力をいたす所存でございます。

今後とも皆さまの一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

目　次

口　絵

発刊にあたって

名古屋港木材倉庫株式会社
代表取締役社長　野間　順一

Ⅰ　前　史
[文政12（1829）～大正12（1923）年] ―― 19

プロローグ　20

1　新田開発　20
新田誕生/新田の状況/名称の推移
[コラム] 化物新田

2　加福土地、加福貯木場設立に向けての動向　28
再築工事の経緯◆（加福）神明社（加福神社）/地主会で新田を運営/会社設立に向けて

3　木材業界の状況　38
木材の流通/貯木場が足らない

Ⅱ 会社創立～終戦
[大正12（1923）年～昭和20（1945）年] ―― 43

1　加福土地株式会社設立、加福貯木場竣工　44
いよいよ貯木場の運営に/貯木事業は順調なスタート/引き込み線開通までの道のり/念願の引き込み線開通/倉庫証券発行の倉庫業/大化会
[コラム] 化物新田、余話「大江駅は化物駅となったかも!?」

2　木材移輸入増加と貯木場開設　56
木材市場の推移/新たな貯木場
[コラム] 整理場と貯木場

3　筏作業と木材荷役　59
筏師と荷役作業会社設立
[コラム]「筏師」の語源は？

4　戦争と木材業界　61
戦時統制の木材と港湾運送業/海洋筏

5　加福土地株式会社から名古屋港木材倉庫株式会社に商号変更　66
貯木場経営

6　戦災と天災、空襲下の貯木場　68
東南海地震と空襲
[コラム] 戦時下の創立20周年

7　土地活用と経営　71
木材関連事業者の集合地

Ⅲ　戦後のスタート～存続の危機
[昭和20（1945）年～昭和41（1966）年] ―― 73

1　焦土からのスタート　74
終戦から再起へ

2　木材業界の状況と動向　76
木材輸入再開へ/業界の再編成
[コラム] 名古屋発祥の合板

3　戦後復興と名木倉　80
いよいよ本格的な復興へ/施設の整備
[コラム] サービスカー参上！

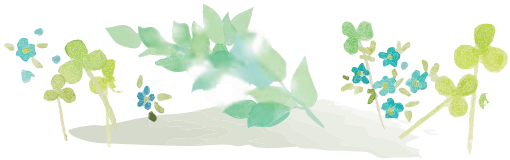
4　終戦後の貯木場と経営地　85
幻の貯木場埋め立て計画/経営地の主な売却
[コラム] 加福水曜会の誕生

5　未曽有の台風災害　87
台風13号/伊勢湾台風襲来/木材流失から復旧に向けて/貯木場の完全復旧

6　高度経済成長と貯木場　100
新たな貯木場/好調な経営

7　貯木場および倉庫業の運営と免許　103
倉庫業/通関業務/植物検疫/港湾運送事業

8　会社存続の危機　109
職員組合結成/経営のひずみ/問題解決に向けて



Ⅳ 新生・名古屋港木材倉庫
［昭和41（1966）年～昭和60（1985）］ 115

1　新生・名木倉のスタート　116
試練を超えて/新たな免許取得/近代化に向かう港湾運送事業/経営基盤の確立

2　木材業界の状況と動向　121
西部木材港、木材街建設 ◆木材港開設式/木材入荷量の減少と木材港/
過渡期の合板産業
［コラム］西部木材街は海上砂漠！

3　輸入木材の繁栄と衰退　132
南洋材 ◆マレーシア・サンダカンに社員を派遣/米材/ニュージーランド材

4　貯木場運営の光と影　137
木材入荷量の変化/西部木材港開港と入庫量 ◆筏による木材の曳航始まる/
入荷木材の荷姿に変化/西部木材港の施設整備

5　名木倉を取り巻く環境　― 躍進から停滞へ ―　147
木材を取り巻く環境の変化/貯木場の縮小から埋め立て、閉鎖へ
［コラム］海上に巨大フライパン？

6　港湾施設の現場から ― 新生・名木倉とともに ―　151
名木倉の社員となる/フォーマンとなって最前線に/本社勤務に

7　新規事業開拓　158
貯木場跡地が新規事業の場に ◆ゴルフ練習場 ◆チップ工場

V 新規事業展開
[昭和60 (1985) 年～平成24 (2012) 年] ―――― 161

1 加福貯木場跡地開発の軌跡 162
加福貯木場埋め立ての経緯/跡地開発の問題点/賃貸事業
[コラム] 加福にリニモが走った！

2 加福貯木場跡地から新たな事業 169
チップ工場開業 ◆チップ新工場建設で業務拡大 ◆生木破砕工場稼働 ◆独自の機械開発へ
◆エコワールド豊橋操業開始 ◆原木加工工場開設/ゴルフ練習場開業
◆ゴルフブーム期にオープン ◆各種ゴルフ教室で客層アップへ◆事務作業をコンピューター化に
◆工夫をこらした運営方法 ◆低迷する入場者数に打開策！/製砂工場開業
[コラム] 幻のドーム球場

3 合同･合弁事業への取り組み 192
環境事業にチャレンジ/ナゴヤフラワーガーデン開業/加福フィッシュランド開設

4 木材業界の現状と動向 198
輸入木材の変化―丸太から製品化へ― ◆製品化により仕出国に変化/
合板産業の衰退と新たな取り組み

5 貯木場の再編整備 202
貯木場の閉鎖 ◆貯木場閉鎖後の整備計画

6 木材と港湾運送業務 205
水面貯木場の縮小へ/貯木場入庫量の推移 ◆水面貯木場への入庫量/
丸太から製材品入荷への移行 ◆陸上貯木場への入庫量/
木材業務（荷役作業、植検･通関） ◆荷役作業 ◆植物検疫と通関 ◆筏師一本乗り/
西部木材港施設の推移
[コラム] 名は体を表す
[コラム] お正月特番に「筏師一本乗り」登場！
[コラム] まさか！ 津波で貯木場から木材流失？

7 グループ会社を合併 219
名古屋港筏株式会社を合併へ

8 情報の一本化と本社社屋完成 222
情報化のあゆみ/本社社屋を建て替え/従業員持株会設立/社史編さんに取り組む

Ⅵ　さらなる躍進
[平成25 (2013) 年～令和5 (2023) 年]　229

1　創立100周年に向け　230
100周年への礎/情報システム室 ― ペーパーレス化を促進 ― /
福利厚生 ◆慰安旅行 ◆さまざまな福利厚生 ◆育児･介護休業 ◆組合主催行事/
【野間進相談役逝く】
[コラム] デジタル化の第一歩は、アナログで解決 ！

2　名木倉･4つの事業　236

(1) リサイクル事業　236
木材チップ ◆エコワールド名古屋 (旧、チップ工場:産業廃棄物中間処理工場)
◆破砕プラント (旧、生木破砕工場:一般廃棄物および産業廃棄物中間処理工場)
◆エコワールド豊橋 (産業廃棄物中間処理工場)
◆エコワールド犬山 (産業廃棄物および一般廃棄物中間処理工場) /
バイオマス発電◆エコワールドバイオマス (バイオマス発電〈NPLWバイオマスパワープラント〉)/
山林
[コラム] カーボンオフセットとカーボンニュートラル何が違う？

(2) 港湾物流事業　245
港湾運送 ◆木材 (丸太･木材製品) の入荷量 ◆本船荷役 (丸太) ◆本船荷役 (木材製品)
◆沿岸荷役 (デバンニング) / 通関 ◆輸入通関 ◆輸出通関/
倉庫 (飛島倉庫･第２飛島倉庫･西部倉庫他)
[コラム] 3度目のウッドショック

(3) レクリエーション事業　252
ゴルフ練習場 (大江グランドゴルフ) ◆近隣にゴルフ練習場がオープン
◆入場者拡大に向け施設整備 ◆コロナ禍とゴルフ練習場
◆若者層がゴルフ練習場の未来を支えるか/釣堀 (加福フィッシュランド)

(4) 土地活用事業　257
不動産賃貸/太陽光発電

3　創立100周年を迎え未来へ ― 創業の精神を明日につなぐ ―　259

資料編 261

- 定款（設立時、令和3年8月現在）
- 社是･経営理念･環境方針
- 組織図･事業所一覧
- 歴代社長･歴代役員の変遷
- 名古屋港木材倉庫労働組合歴代役員一覧
- 資本金の推移
- 売上高の推移
- 名古屋港木材倉庫（株）　樹種別年間入荷量の推移
- 名古屋港木材倉庫（株）　貯木場別年間入庫量の推移 ①
- 名古屋港木材倉庫（株）　貯木場別年間入庫量の推移 ②
- 名古屋港入荷量　移入量（国内材）の推移
- 名古屋港入荷量　輸入量（外国材）の推移
- 名古屋港木材輸入仕出国の推移
- 名古屋港原木輸入仕出国の推移
- 名古屋港板輸入仕出国の推移
- 名古屋港製材輸入仕出国の推移
- 名古屋港木製品輸入仕出国の推移
- 名古屋港挽材輸入仕出国の推移
- 名古屋港その他木材輸入仕出国の推移
- 貯木池造営以前の化物新田（加福新田）略図
- 加福貯木場平面図（昭和28年頃）
- 名古屋港、西部木材港主な貯木場位置図（昭和48年、令和４年）
- 年表

引用･参考文献

編集後記

凡　例

1　本書は、原則として常用漢字、現代かなづかいを使用した。ただし、木材業界および当社で慣用されている表現は原則によらなかった。
　例えば、「(木材を)仕分ける」は「仕訳る」とし、「フォアマン」は「フォーマン」とした。

2　引用文は、原則として原文通りとしたが、読みやすさに配慮し旧漢字を常用漢字に置き換え、また、句読点を補った場合もある。

3　本文中の会社名・人名は、原則として正式な漢字を使用した。敬称は省略した。

4　地名・会社名・役職者名などは、原則として記述内容当時の表記によったが、できる限り現在の名称を(　)内に併記した。

5　株式会社・有限会社などは、同一項内における初出のみの記載とし、以下(株)(有)とした。

6　本文中の年号は邦暦を使用して、江戸・明治・大正時代には西暦を(　)内に併記し、同一段落内の初出のみに記載した。ただし、年号が連続する場合は省いた。また、明治から令和までの邦暦の名称は、各段落の初出のみに記載した。
　例えば、大正 12(1923)年 5 月、加福……した。14(1925)年 5 月には貯木場が開業した。

7　本文中の単位語は、原則として引用・参考文献通りに記載した。そのため同一項内でも異なる単位後で記述した場合もある。
　例えば、木材量の場合：石、㎥、t など。
なお、単位の換算では、1 坪を 3.3 ㎡とした。

8　本書掲載の資料(図・地図・表・文書など)の中で名称が統一されていない場合があり、できるだけ該当機関での正式名称に基づき記載した。
　例えば、「天白貯木場」「天白川口貯木場」「天白河口貯木場」は、「名古屋港管理組合広報」に準じて「天白川口貯木場」と記載した。
また、統計資料中の数値合計が合致しないものは、原文通り記載した。

9　当社所収の資料(図・地図・文書など)の中には表記施設名が、施設の構造から判断すると異なる名称が用いられている場合がある。資料中では原文通りとしたが、本文中では正確な名称に置き換えて記載した。
　例えば、加福貯木場内に設置されていた「第 1・2 閘門」は、構造上では「水門」となる。

10　当社は木材倉庫業であるため、貯木場や倉庫に丸太や木材製品が入った時は「入庫」とし、それ以外の名古屋港などの場合は「入荷」として、語句を使い分けた。

11　本文中に、「原木」「丸太」の表記があるが、原木は「仕出国内」、丸太は「仕出国を離れた場合」の表記として区分した。
また、「製品」「製材品」の表記は、「木材製品」で統一した。ただし、米材などは「製材品」と記した。

12　本書執筆に際し引用あるいは参考にした文献・資料は、巻末に示した。